一般演題P2-3
琉球大学医学部附属病院での高気圧酸素治療の状況

上江洲安之[1]　砂川昌秀[1]　新垣澄子[1]
斉藤末美[1]　西表由紀子[1]　合志清隆[1]
井上　治[2]　野原　敦[3]

1）　琉球大学医学部附属病院　高気圧治療部
2）　江洲整形外科クリニック
3）　鈴鹿医療科学大学　医用工学部　臨床工学科

【はじめに】

当院に多人数用の高気圧酸素治療装置が設置され40年以上になる。今回，我々はこれまでの治療件数の流れと，直近の2012年度の治療状況を紹介する。

【対象と方法】

当院開設当初の1978年から2012年までの年間患者数，救急患者数および2012年度の治療開始時の保険診断名と点数の区分，入院と外来の治療状況などを電子カルテから調べた。

【結果】

2012年度は，治療患者数258名，総治療件数は6,886件であった。そのうち「救急的」での請求は1,225件であったが，日に2回の治療のことが多く，実際の請求は841件であった。入院あるいは外来で治療を開始した患者は，それぞれ207名と51名であった。保険診療面から「救急的」で治療を開始しているものは，入院が147名に対して外来は4名のみであり，「非救急的」で治療を開始したものは入院が60名と外来が45名であった。しかし「非救急的」で治療を行なっていても，手術などで病状に変化があれば「救急的」に変更されていた。保険診断名で多いものは，末梢血管障害（84），突発性難聴（77），骨髄炎（21），顔面神経麻痺（18），軟部組織感染症（16），脳腫瘍（10），脳浮腫（7），腸閉塞（6），脊髄障害（6）などであった。診療科は，耳鼻科（116），口腔外科（44），整形外科（37），脳外科（20），腹部外科（8），婦人科（6），救急部（6）の順であった。また，紹介医がHBOの理解を深めるために，回数や効果などに関する科学的根拠を示している。

【まとめ】

開設当初より2012年度の治療患者数は，約5倍に増加した。HBO治療の対象となる疾患は外科手術後の虚血状態の改善に用いられることが多かった。さらに診療科別では耳鼻科や口腔外科からの治療依頼が目立っていることは，他の診療科医師のHBO治療に対する認識が十分ではない可能性を示唆したもので，今後の啓蒙活動が1つの課題である。

2012年度における高気圧酸素治療患者の内訳

治療形体	（件数）	保険疾患分類	（件数）	保険診断名	（件数）	診療科別	（件数）
入院治療	207	救急	147	末梢血管障害	84	耳鼻科	116
		非救急	60	突発性難聴	77	口腔外科	44
				骨髄炎	21	整形外科	37
外来治療	51	救急	4	顔面神経麻痺	18	脳外科	20
		非救急	45	軟部組織感染症	16	腹部外科	8
		その他	2	脳腫瘍	10	婦人科	6
				脳浮腫	7	救急診療科	6
				腸閉塞	6	その他	21
				脊髄障害	6		
				その他	13		
					258		258

【参考文献】

1）花城久米夫、湯佐祚子他；琉球大学保健学部附属病院高気圧治療部として治療した症例、琉大保医誌5（1）;55～64,1982
2）上江洲安之、砂川昌秀他：琉球大学医学部附属病院における高気圧酸素治療の患者動態、日本高気圧環境・潜水医学会雑誌Vol47 No4 2012